

1 はじめに

本学校園では、「社会力」を門脇厚司氏が指摘している「自分が将来身を置くであろう社会において、人が人とつながり、よりよい社会を築いていこうとする力」ととらえ、その育成をめざした取り組みを通して、めざす子ども像の中に掲げている「思いやりをもち、集団の一員であることを自覚した」姿の達成につなげていこうと考えた。そこで、教育研究ブロックごとに、次の育てたい力を定めた。

	教育研究ブロックごとに育てたい力
初等部前期	仲間とともに活動する喜びを味わい、素直に満足感を感じながら活動する力
初等部後期	所属する集団の一員であると感じ、所属集団の中で自己を生かし、行動する力
中等部	自分が集団や社会の一員であるという自覚のもと、みんなのくらしをよりよくするために考え、構想をもち、実現に向けて進んで行動する力

そして、この教育研究ブロックごとに定めた力をよりよく育成するためには、実践を通して検証し、その成果と課題を明らかにしていく必要がある。そのための具体的な活動として、〈保育・生活・総合〉、〈道徳〉、〈特別活動〉という3つの研究領域を取り上げることにした。

今年度は、昨年度と同様に、全教員がいずれかの研究領域に所属し、それぞれの研究領域ごとに協議を行った。そして、それぞれの研究領域主任が、その協議結果を集積し、研究領域主任者会を開き、それぞれの領域の関連性を中心に検討することによって、3つの研究領域を「つむぐ」ための素案をつくることを試みた。

もちろん、〈保育・生活・総合〉、〈道徳〉、〈特別活動〉が本来もっているねらいを曲げてはいけないことはいうまでもない。

2 社会力の育成に向けての研究領域ごとの整理

道徳部会では、〈保育・生活・総合〉と〈特別活動〉の活動でも、「思いやりの心」を視点にあてるため、昨年度の重点目標を見直した。その結果、まず、重点目標であった「健康や安全に気をつけ、規則正しい生活習慣を身につける。」(初等部前期)「自分の生活をよりよくしようとする態度を養う。」(初等部後期)「望ましい生活集団を身につけ、自主的、自律的に行動することができる。」(中等部)を今年度は基本的な生活習慣ととらえ、教育研究ブロックの土台として位置づけた。そして、教育研究ブロックごとに今年度定めた重点目標を区分した「自分を思いやる」(初等部前期)「仲間を思いやる」(初等部後期)「社会を思いやる」(中等部)につなぐことで、「思いやりの心」が成長するにしたがってより広い範囲の人とつながるよう設定した。これを実際の年間指導計画に反映させることで、実践し検証するときの、明確な視点となるようにした。

保育・生活・総合部会では、昨年度までに「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」のある追求から身につく力と社会力との関連性を整理し、それをもとに、それぞれの教育研究ブロックでめざす姿を明らかにし、11年間で育てる子どもの姿をイメージした。今年度、その姿に照らし合わせた活動計画を道徳の重点目標と照らし合わせながら作成した。すると、保育の2年間の活動で現れる心情面も、道徳で重点目標を区分した「自分を思いやる」→「仲間を思いやる」→「社会を思いやる」という一連の流れをたどるように組むことが大切ではないかという結果に至った。保育においても、自分自身の安定、つまり自尊感情の育成を基盤とし、その上に友だちの存在を受け入れることができると考える。生活科においても「自分自身への気づき」が重要となり、生活科の目標をめざす上で、「自分を思いやる」心情の重要性がはっきりした。初等部前期でしっかりと「自分を思いやる」心情を培い、そして、初等部後期から中等部へかけ、「仲間を思いやる」から「社会を思いやる」という心情を育みながら、追求する活動を行うことが大切だと考えた。

